

子どもたちに人気の、魔女のシルクと人間の女の子ナナと召使いねこが活躍する「なんでも魔女商会（あんびるやすこ作）」から問題です。召使いねこの名前は？

- ①カシミア②ウール③コットン



No.31 学校図書館 司書だより

2018年7月

本と読書

私と本と坂本竜馬と、
今はなき『ツタヤ』と

堀部昇

『ツタヤ』二冊は我がふる里である益田郡（現在下呂市）小坂町に唯一あった書店の名前。当時中学校二年生まで、文房具を買うことはあっても、自分で本を買うというのをしたことがなかった。

ところが、二年生の社会科で歴史の勉強をしているときに、教科担任の先生がこんな話をしたのである。

「今日の勉強で出てきた坂本竜馬という人は、まさしく幕末の英雄で、若くして命を落とした。彼が長生きしていれば、もっと変わった世の中になっていたかもしれない。この人を知りたい人がいたら、司馬遼太郎という人が『竜馬がゆく』という本を書いているから読んで。」

それまでなら、聞き流すところだがその話が妙に気になった。そして、その本を求めて『ツタヤ』に足を運ぶ自分がいた。こんなことは初めてである。どこにどんな本があるかわからず、ようやく探し当てた。しかし、全五巻からなる単行本は、第二巻からしかない。中を見ると、上下二段で細かい文字。一冊、ゆうに百ページを超えた。普通なら二冊で拒

否反応を示すがそれまでの自分だ。ところが、その第二巻を購入してしまったのである。途中からなのに…。そしてこの日が、初めて自分で本を購入した記念日となった。

第二巻から読むという普通ではありえない設定にもかかわらず、第一巻を想像しながら読んでいた自分がいた。かえって面白さも倍増したような気分だ。

「坂本竜馬という人、これは面白い！」

これが自分をこの本へと掻き立てる原動力となった。かくして、この第二巻を二日で読破。結局すぐにまた『ツタヤ』のお世話となった。その後、司馬遼太郎の本をはじめ、多くの本を求めて、何度もお世話になるとは、自分も『ツタヤ』の店員さんも知るよしもない。

第五巻まで読み終わった時点で、残るは第一巻のみとなった。母が気をきかせて高山市の本屋で第一、二巻を買ってきてくれた。なげ、一、二巻なのか。それは母の購入してくれた本は文庫本。文庫本だと全八巻。単行本の第一巻を読むには、文庫本では一、二巻が必要だったのだ。

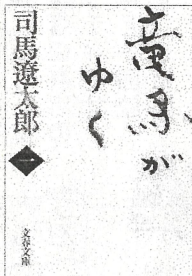
このように、私と本との出会いは全く普通

ではなかった。私は、

結末が分かっただけから

第一巻を読み、なお

かつ、私の本棚には



「竜馬がゆく」の文庫本第一、二巻と、単行本第二〜五巻が並ぶことになった。

それまで、本のよさは知っていても、自分から本を買って読みたいと思ったこともない生活だったのに、本に対する思いが「竜馬がゆく」この出会いで一変した。

その後、自分は『ツタヤ』のお得意さんになり、司馬遼太郎の本を読み進めた。そしてさらに他の著者の歴史小説へと本の世界が広がっていった。

三年生になって、「竜馬がゆく」で読書感想文を書いたのも一つの思い出。そんな長編小説で感想文を書いた人はあまりいないだろう。蛇足だが、読書感想文で賞状を頂いたのは、これが最初で最後である。

*【単行本と文庫本】文庫本とは、単行本が出版されてからある程度の時期を経て、単行本より一回り小さいサイズで、安く売られているものことです。

堀部さんは、西中学校の校長先生で、今年度から市内の小中学校の図書館教育の推進担当をしておられます。

夏休みは図書館へ一人一〇冊まで借りられます！

7、8月は、中央・東図書館とも朝9時30分に開館します。閉館は、平日は 中央図書館 午後6時で、東図書館 午後8時です。（土・日・祝日は、両館とも、午後5時15分まで）

三和の北部分室は、午前10時〜午後5時まで閲覧可（貸出日はお問合せ下さい。中央図書館251-7316）
図書館まつり（楽しい催しがいろいろ！）

東図書館 7月19日（木）〜24日（火）
中央図書館 7月26日（木）〜8月1日（水）

読書タイム

市内の学校・園・施設の
子どもと読書をのぞいてみました

山手小学校では、昨年度、新校舎増築に伴い図書館を移動しました。今年度は、新しい図書館で気持ちよく学習したり読書したりできる環境が整いました。読書への取組は、次のように行っています。

まず、月曜日から木曜日までは朝読書です。教室に入り、係や委員会の活動が終わった児童から、静かに読書を始めます。朝の会が始まるまでの約十五分間ですが、読書を行うことによって、学校全体が落ち着いた雰囲気です。

また、毎月一回、職員による朝の読み聞かせを行っています。担任の先生ではなく、他の学級や別の学年の先生で読み聞かせることにより、その学級の様子が分かったり、交流が生まれたりしています。もちろん児童への、いろいろな本の紹介にもつながっています。

さらに保護者の学年委員による読み聞かせが年に三回。父親や地域の方などによる読み聞かせもあります。保護者の方が大切にされていることや、自分の仕事と関係していること、趣味のことなど、幅広いジャンルから本を選んでくださり、子どもたちの興味を広げていく様子が、表情からうかがえます。さらに「〇〇さんのお母さんだ」「地域の歯医者さんだ」と、



山手小学校

親しみを込めて話しかけ、いろいろな方と仲良くなれることを楽しんでいます。昼休みには、地域や保護者の有志の方でつくっている図書ボランティアサークル「ポンポロン」が、毎月一回読み聞かせに来てくださいます。季節に合ったお話やシリーズもの、テーマを決めるなどして本を選び、子どもたちも目を輝かせて聞いています。

図書委員会では、六月十四日から二十二日まで「図書館あじさい祭り」を行いました。分類番号ビンゴカードを作り「二つビンゴができたら、シールがもらえる」という楽しみを作って、推薦図書や「本は友達」の本、九分類（文学）以外の本にも目を向けて読むことができました。さらに三ビンゴを達成した人には、折り紙で作った紫陽花を渡し、クラスと名前を書いて、図書館に掲示しています。水色や白、ピンクや薄紫のすてきな紫陽花の花が図書館に咲いています。司書の堀部先生に、どんな本を読もうかと相談している子や、自分のお気に入りの本を嬉しそうに紹介している子もいて、短い期間でしたが楽しい図書館祭りになりました。

また、図書委員が、屋の放送で「子ども新聞」から記事を紹介し、感想を付け加えて話しています。全校児童には、社会で起きていることに関心をもつ機会となっています。

さらに市の図書館とも連携して、関連図書を学年ごとに借りています。このように、読書センターとしてだけでなく、情報センター、学習センターとしての役割も認識して、さらに子供たちの力を伸ばしたり、豊かな心を育てたりすることに役立てるよう、今後取り組みたいと思います。



「かえるのどびん」

野村たかあき作 教育画劇

1100円＋税

おいけがむらに暮らすかえるのどびんは、泳ぎの競技にいつも負けてばかり。みんなにカナヅチどびんからかわれていました。そんなどびんが、とおくのやなぎがむらのとびつき競技に挑戦しに長い旅にたったひとりで出かけます。とびつき競技では、勝つことができるのでしょうか。何かを頑張っている全ての子ども達を応援したくなる一冊です。



「先生、しゅくだい わすれました」

山本 悦子作

童心社 1100円＋税

ゆうすけが、おなかが痛くて宿題ができなかったと言うと、先生は、聞いた相手が楽しくなるようなウソをつかないとねというのです。みんな毎日順番に宿題忘れの楽しい話をするようになりました。宿題も宿題忘れも楽しくなることうけあいです！

この本読んでみて！



「かがみの孤城」

辻村 深月作

白泉社



1200円＋税
中学一年生のころは、ある出来事を機に学校へ行けなくなりました。ある日部屋の鏡が光り始め、鏡をくぐり抜けた先にあったのは、城のような不思議な建物。そこにはここらと似た境遇の七人が集められていた。なぜこの七人がこの場所に？すべてが明らかにするとき、驚きとともに大きな感動が...

2018年本屋大賞第一位の本。



「子どもの人権をまもるために」

木村草太／編

晶文社 1700円＋税

子どもの人権について、あらゆる専門家が筆をとっています。虐待、貧困というキーワードはすぐに思いつくでしょう。それだけではありません。家庭では、親の離婚・再婚。学校を場面として部活・指導死、不登校の問題など。また、法律・制度の中には「SOS」に関しても書かれています。世界にも目を向け、教育を受ける権利や児童婚など、この一冊で社会を見る目がぐっと深くなると思います。

図書館クイズの答え ③コットン
作者のあんびるやすこさん(「魔女の庭ものがたり」「ルルとララ」シリーズなど)は、今年作家生活30周年を迎えます。



子どもの人権をまもるために